

聖書と福音の時間です。1000 回と聞いて思い浮かぶのは「千里の道も一歩から」という諺でしょう。大きなプロジェクトも、まず一歩から始まるという事ですね。

新しい人生は「**まず聞くことから始まり、聞くことはキリストについてのことばだ**」と聖書は語ります。この記念講演が人生の新たな一歩となりますように。

さて今日も、世界のベストセラー聖書より、キリストの福音を分かりやすくお届けします。

お話しはラジオ伝道者の高原剛一郎さんです。

~~~~~~~~*~~~~*~~~~*~~~~*~~~~*~~~~*~~~~*

ご機嫌いかがですか？ 高原剛一郎です。この挨拶を皮切りに番組が始まって、今月で 19 年と半年を迎える事になりました。こんなに長く続ける事ができた大きな要因の 1 つはリスナーの皆様からの励ましです。毎回收録する前に、スタジオで必ずする儀式があります。それは、リスナーの皆様から来たメールや手紙をスタッフ全員の前で読み上げる事。それを読むと、何かやる気が出て来るんですね。

今から 10 年ほど前にもそのような手紙を頂きましたが、それには差出人の名前がありませんでした。はっきり申しまして、差出人の名前のない手紙はロクなのないんですよ。クレームかなと思って開いたら、案の定、「この番組は眠い」と書いてある。「最後まで聞けた試しがない。眠気を誘う」と書いてあって、随分ガッカリしたんですが、しかし続きがありました。

「私は 20 数年来、睡眠障害を患っていました。睡眠導入剤がないと休む事ができず、量もどんどん増えて、ドクターから『抗うつ剤に変えましょうか』という話もあった時、数年前にこの番組を聞いたのです。神の言葉に生まれて初めて触れました。大きな神がおられて、私をすっぴり抱きしめるようなイメージが現れ、ちょうど私の頭を『いい子、いい子』しながら、赤ちゃんを寝かしつけるように、安息を与えようとしている絵が浮かぶのです。それ以来、薬がどんどん減って、とうとう薬に頼らなくてもよくなりました。スタッフの皆さん、どうぞ長生きしてください。」

ペンネームを書いてました。「眠りの森のおばば」。今でも忘れる事ができない手紙です。

私たちの番組が何か癒したり、気落ちしている人を励ましたりできるなら、本当に嬉しい事です。

だけど、今は起きててください。今から 30 分時間を頂いているので、聖書のメッセージを皆様と一緒に分かちしたいと思います。

お手元のプログラムの裏面をご覧ください。最初に「聖書のことば」というのが出て来ます。

これは聖書のメッセージのエッセンスを凝縮した箇所として、クリスチャンには非常に有名な箇所です。まずここをお読みします。たった 2 行です。前半に 1 行目の解説をして、後半で 2 行目の解説をします。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ではまず 1 行目。**ヨハネ 3:16** 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになるほどにあなたを愛した。神様はありったけの愛をもって、あなたを愛された」と宣言されているのです。

ここで神という言葉が出て来ますが、今まで私たちが聞いて来た神とは違います。今まで日本人が聞いてきた神は、基本的には人間が作った神々を神と呼んできました。しかし聖書が語っている神は、人間を造られた、言わばあなたの作者・全世界の作者・全宇宙の第一原因者を神/創造主と言います。世界をデザインされた素晴らしい作者の事です。

3年前に、日本最大の投資家と言われた竹田和平（たけだ わへい/1933-2016）さんが亡くなりました。この方は日本の上場企業 100 社以上の大株主で、時価総額が 130 億円以上。天才的投資家で、何とリーマンショックの時、無傷だったというのです。バブル崩壊の時も全く傷を受けず、先読みして投資を続けて来た方。非常に読みの深い、見方の鋭い方。

ある時、後継者と 2 人で公園を歩いていた時に、こう言ったそうです。「なあ、自然を見ていると不思議だと思わないか？ タンポポみたいにも人間の背丈よりも低い花は、みんな上向いて咲いているよね。ヒマワリのように人間と同じくらいの高さの花は、みんな横向いて咲いてる。桜のように、人間よりも上から咲いている花は、みんな下に向かって咲いている。植物は不思議な事に、人間が見易いように、人間に見え易いように咲いている。まるで人間を祝福するかのよう。これは天が人間を励ますために、そうデザインしたと思えてならないんだ。この世界を造った天は自然界を通して我々を励ましたり、慰めたり、癒やしたりしようと、そのように咲かせているのではないか？」

この方はクリスチャンではないです。投資家。読みが鋭い方。世の中の事をよく考えている方。「よく注意を払って自然界を見渡すなら、自然界は上手く出来ているではないか。」夏の暑い盛りにはスイカが実りますね。スイカのパッケージというか、実の色は涼しい深い緑。寒い冬にはリンゴやミカン、暖色系の暖かい色のパッケージの果物になるんじゃないでしょうか？人の心を上に向けよう・育てよう・良くしてあげよう。そして花束を差し向けるみたいに、人の心を癒すために、神は多くの植物を人に向かって咲くようにしているんじゃないだろうか？

デザインがあるならば、デザインした人がいるのは当たり前の話です。素晴らしい世界をデザインなさった方を、聖書は「創造主・あなたの魂の親がおられるのだ」と宣言するのです。聖書によると、神が造られた被造物・作品の中で最も素晴らしいのは人間です。あなたです。

宇宙は広いですよ。宇宙の前で人間はちっぽけ。でも宇宙は広いけど、自分が広いという事が分からない。ただの空間やから。太陽は熱い。表面温度だけで 6400℃。でも太陽は自分が熱いという事が分からない。水素の塊やから。

私たちは自分が小さいとか、弱いとか、嬉しい時には笑ったり、誰かを信頼したり、悔しかったり、祈ったりできる人格を持っています。人は人格を持つ者として造られたので、最も優れた尊いものなのだと聖書は語るのです。

ところが、神様がそんなにも人間を尊く造られたのなら、ちょっと解せない事がある。どうして人間の世界は、野生動物の世界にも見当たらないほどの争いや醜い事や、苦々しい事件が起こるのか？ 一体どういう事なのか？ それは「一人ひとり尊く造られた人間が、創造主である神様から離れて、神との関係を切って生きているからだ」と聖書は語るのです。

私は 6 月にアメリカのシアトルで講演をしました。フリーの日が 1 日あったので、前から行きたかった所に行きました。世界最大の工場、ボーイングの組み立て工場です。大きな建屋の中で、8 機の旅客機が

同時並行で組み立てられて行くのですが、それでもまだブカブカの広いホールというか工場。感動して見ていたのですが、その工場以上に私を感動させたのは、そのすぐ近くにある破壊検査工場。

飛行機が完成すると、例えば翼に鎖を付けて、何十トンの力で翼を上へグーッと引っ張って押し曲げる。押し曲げたら、今度は何十トンの力で下に向かって折り曲げる。また押し曲げて、折り曲げて。何十回もやったら、最後は金属疲労でパキンと折れますね。何回目で折れるのか、どこまで負荷をかけたら翼は壊れるのか、どこまでのプレッシャーなら飛行機は大丈夫なのか。完成したばかりの飛行機をいじめ抜く工場です。ボロボロになって行く飛行機を見ながら、老いていく自分の姿が重なって「頑張れよ!」みたいな感じ。

そこまでして安全性を追求している乗り物が飛行機ですが、それだけでは安全と言えないんです。飛行機は誰が飛ばしていると思いますか? 多くの方はパイロットだと思っています。違う。管制官と言われる人たちが、どう飛ぶかを決めて飛ばしているんです。パイロットは操縦するだけ。空港に行ったら背の高い建物があって管制塔と言います。そこに管制官がいて、飛んでいる飛行機に指示を与えながら空の交通整理をしているのです。

飛行機には決まった通り道があって、それを航空路と言います。例えば、航空路で交差点みたいな所があって「このまま飛んで行ったらぶつかりそうだ」と前もって分かる管制官は「航路を変えなさい」とか「遠回りをして、そこ、行かんようにしなさい」とか、しょっちゅう指示を出している。飛ばし過ぎている飛行機には、そのままだと前の飛行機に当たるから「もっとスピードを緩めなさい。」指示を与える。パイロットは指示を聞いて操縦しているだけ。飛行機を飛ばしているのは、実は管制官。

安全に飛ぶ事が出来るのは、飛行機が管制官と繋がっているからです。管制官との通信を切って「いちいち指図するなよ! 今日から俺が管制官!」とか言って、自分の好きなように飛んだら必ずクラッシュします。大事故になるのです。飛行機は必ず管制官と繋がっていないと行けません。

繋がりを切ったら必ず駄目になる。「全ての人々がそれをやっている。この世界の、全宇宙の管制官・統治者である唯一の神/創造主から離れ、神との関係を切って、各々自分自身が管制官のように振る舞っているの、ぶつかったり・傷つけ合ったり・墜落したり・最後は滅びと死ではないか」と聖書は語ります。私たちは管制官と繋がる必要があります。全ての人々は自分の造り主のもとに立ち返る必要があるのです。

ところで、交通ルールもそれを破ったら罰がありますね。この前も酷い事件がありました。あおり運転。何ですか、あれは。無理に車止めて、窓からパンチって。こんな酷い奴が世の中にいたのかと。どこに住んでるんだ?! 東住吉区。私の町。わが町をこんな事で有名にしやがってと。そんな人ばかりではありません。

ネットを見ると「厳罰が必要だ!」。今の法律では、何か月間かの免許停止で元に戻る事ができる。罪を見て、それにふさわしくない軽い罰しかないという事が分かると、人は「こんな事が許されてたまるか!」と義憤を感じるのではありませんか? 罪に対して、それに見合う罰が必要だという考えは、人間の正義感から出て来る考えです。

しかし、神の正義感はもっと正しいもの。罪に対して罰が必要なら、私たちの中で罰と無関係の人は誰もいません。全ての人々が神の前には罪人だから。しかし、神は罪の罰を人に負わせるのではなく、ご自分のひとり子であるイエス・キリストの上に振り下ろそうと決められました。

人が犯した罪の責任を人に問うのではなく、全く罪のない方・神のひとり子・神なのに人となってこの世界に来た方・人となられた神イエス・キリストが十字架にかかって、人が本来受けるべき全ての罪の罰をたった1人で引き受けてくださいました。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

与えたの原文の意味は「捨てた」です。

「神は十字架の上で、ご自分のひとり子をお見捨てになった。それは、罪人の罪の罰を身代わりに引き受けさせるためであった。それを行った神の動機は、あなたに対する愛だった」と語っているのです。

では後半、2行目の説明をしましょう。

ヨハネ 3:16 それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

キリストは私たちの罪の身代わりで十字架の上で死んでくださった。

しかし、墓に葬られて3日目に死を突き破って復活なされた。

このキリストの十字架と復活を信じ、救い主として受け入れる者には2つの事が約束されています。

①一人として滅びることがない

滅びるという言葉の原文の意味は「失われる」。私たちが救い主イエス・キリストによって神に戻るならば、人生に何があっても、神様の守りの手から・祝福の中から失われる事がないのです。

随分前、私はイスラエル軍の参謀総長であったラファエル・エイタン（1929-2004）という人物に単独インタビューした事があります。昔イラクにサダム・フセインという独裁者がいて、原爆製造のために原子炉を造りました。それが稼働する直前、イスラエル空軍が8機編隊で秘密裏にイラク空域に侵入し、木っ端微塵に爆破して帰って来るといふ秘密作戦を実行したのですが、その作戦の最高責任者です。

いくつか質問しました。「あなたの兵士が敵地で撃墜されて捕虜になったら、あなたはどうするおつもりだったのですか？」—「兵士たちは知らなかったが、パイロットのブーツに信号発信機を付けていた。墜落前にパラシュートで脱出して、潜伏した場所がジャングルだろうが、荒野だろうが、谷間のどんな深い所でも、どこに彼らがいるのかは全部、イスラエル空軍のレーダーでキャッチし、リアルタイムで全て把握している。そして、どこにいるか分かっている限り、全力で救出するための次の手・次の手・次の次の手まで全部揃えてあった。ミッションが失敗した時にはこうする、という次の手立てが全て準備されていたのだ。」

日本は本当に平和で安全な国です。でも日本に住んでいながら、時に、敵地にいる撃墜された兵士のような心境になる事はありませんか？ 長く生きていたら色々な事がありますね。友に裏切られたり、大事な人が不治の病に罹ったり、念願だった試験に中々通らず、将来を諦めなければならないとか。

生きていたら、まるでここが敵地のように、先行きが見えなくて、味方になってくれそうな人がどこにも見当たらず、たった1人で敵陣にうずくまっているような心境になる事があるかもしれません。

だけど、神は言われます。「御子を信じる者は、一人として失われる事はない。」

私たちがどんな人生の境遇にあっても、神様は共におられるのです。

皆さん。イエスを信じたらトントン拍子で全部上手くいく・大学は現役合格・会社は出世・宝くじは1等当選とか、ありません！ 聖書はそんな事は約束してない。クリスチャンであっても、人生生きている限り試練は来ます。しかし、神は試練に耐える力を与えてくださる。その試練を通して、私の人格を変えていってください。

そして、試練と共に脱出の道を必ず準備する。その準備なしに試練が襲いかかる事はない。聖書は「この地上を生きている間、全知全能の神があなたをエスコートしてくださる」と約束するのです。

②永遠のいのちを持つ

私たちはいつか死にます。全ての人亡くなります。問題は、死んだ後、命・魂はどこに行くのか？

VIP 専門のコンシェルジュとして活躍されている大網理紗（おおあみ りさ）さん。彼女が接待するVIPは各界の要人。ボディガードだけで20人くらい連れて来るような外国の大物や極秘で来日した人物たち。国際博覧会や国際会議・超一流ホテルのVIP専属で、いつも彼女が抜擢されて仕えるのです。

私も1度講演を聞いた事がありますが、色んな取り決めがあって、爪の長さまで決まっているそうです。お辞儀は下げる時よりも、上げる時をゆっくりとか。2-3回やったら腰痛が始まりました。

ある時、仕事が終わってホテルに戻って来た超VIPに「お帰りなさいませ」と声をかけたら、まるで時間が止まったみたいに固まってしまって、彼女をしげしげと見つめるのです。

「お帰りって、久しぶりに聞いたなあ。いつも当たり前聞いてたんだけど、昨年妻が亡くなったんだ。『お帰りなさい』という言葉は、僕にとって特別な言葉なんだよ。」

家に帰ったら鍵がかかっていてドアノブが冷たい。開けて入ったら真っ暗で、部屋が散らかっていて、亡き妻を思い出させる物がいっぱいあって。たった1人でその中にいるというのは、孤独を一層際立たせ、思い起こさせる空間でしょう。

だけど、優しくて明るくて「お帰りなさい」と出迎えてくれ、喜んで待っていてくれ、自分を待望している人がいてくれたら、疲れていてもスキップして帰りたくなるんじゃないでしょうか？

死んだ後、魂が行くのはどんな世界でしょう？究極の暗闇の恐るべき世界なのか？「お帰りなさい」と、あなたの帰りを待つ方がいる世界なのか？聖書を見ると、神ご自身があなたの帰りを首を長くして待ちわびておられる。神がおられる天国には、永遠のいのちを持つ者だけが行く事ができるのです。

どうしたらいいのでしょうか？あなたのために命まで捨てて、あなたを庇ってくださった方/御子イエスキリストを信じる者なら誰でも。

私の好きな漫画家、赤塚不二夫（あかつか ふじお/1935-2008）さん。「シェー！」とか『天才バカボン』『おそ松くん』色々ありました。彼は連載を何本も抱えていて、編集者が出て行くと、すぐに別の雑誌の連載を描いている。

担当の編集者が、そんな超売れっ子の赤塚不二夫の原稿を持ち帰ったのですが、途中で紛失するという事件を起こしたんです。どんなに捜しても見つからない。途中使った交通手段にも聞きまくったけど、原稿はとうとう出て来なくて、会社としても大事件になりました。もうどうしようもない。正直に言って謝るしかない。

彼が謝りに行ったら、黙って聞いて、何にも言わずに、描きかけの別の会社の原稿を放って、もう1度一から描き直すんです。そして、完成すると彼に原稿を渡して、こう言ったそうです。

「2回目だから、1回目よりもっと上手く描けたと思うよ。ガッカリすんなよ。」

この編集者がやったのは致命的ミスです。でも、赤塚不二夫はひと言も咎めなかった。

咎めるどころか「君が失くしてくれたから、1作目よりも2作目の方がもっといい出来になった。」

